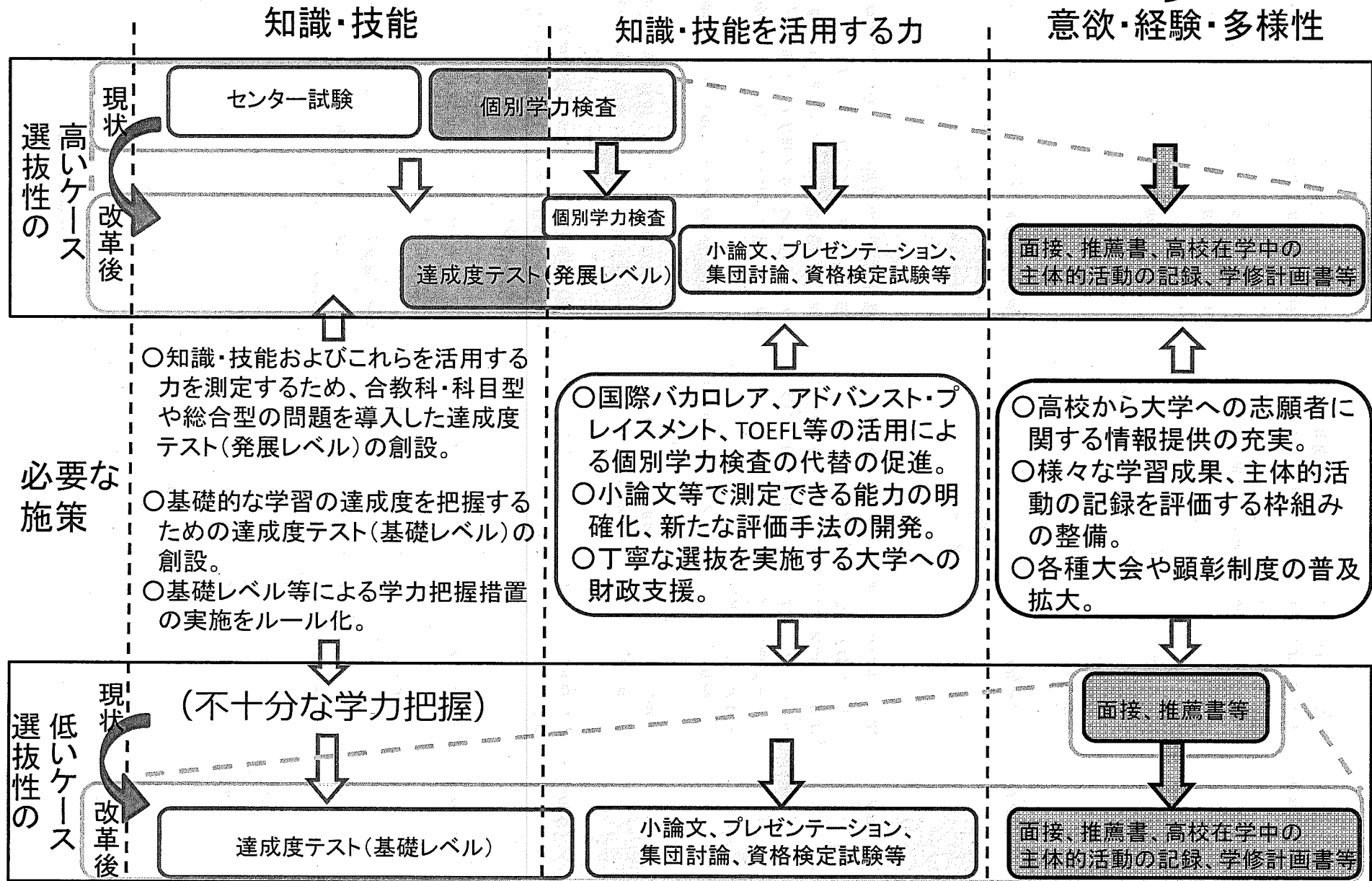


大学入学者選抜の転換のイメージ

資料1-3

一般入試・推薦入試・AO入試の区分を見直し、入学者選抜全体において、多面的・総合的に評価する総合型選抜へ抜本的に改革



達成度テスト（基礎レベル及び発展レベル）（仮称）の概要（案）

	達成度テスト（基礎レベル）（仮称）	達成度テスト（発展レベル）（仮称）
目的・活用方策	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が、<u>自らの高校教育における基礎的な学習の達成度の把握及び自らの学力を客観的に提示することができるようにし、それらを通じて生徒の学習意欲の喚起、学習の改善を図ること</u> <上記以外の活用方策> ○結果を高等学校での指導改善にも生かすこと ○推薦・AO入試や就職時に基礎学力の証明や把握の方法の一つとして、その結果を大学等が用いることも可能とすること 	<ul style="list-style-type: none"> ○大学及び大学入学志願者が、<u>これからの大学教育を受けるために必要な能力（「生涯学び続け、主体的に考える力」等）について把握することを主たる目的とし、このうち大学入学志願者に求められる基礎的・基本的な知識・技能及びこれらを活用する力の測定を重視</u> ○大学入学者選抜の基礎資料
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ○希望参加型 ※ <u>できるだけ多くの生徒が参加</u>することを可能とするための方策を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○大学入学志願者（転学・編入学希望者を含む） ※ <u>大学で学ぶ力を自ら確認したい者（大学在学者や社会人等）の受験も可能</u>
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○実施当初は<u>国語、数学、外国語、地理歴史、公民、理科を想定（選択も可能）。</u> ○高等学校段階で共通に求められる<u>基礎的・基本的な知識・技能を測る。知識・技能の活用力を測る問題も含める。教科を融合した問題</u>を含めることも検討 ※ <u>問題の性質としては、学習の達成度を測るものとし、選抜的なものとはしない</u> ○各学校及び生徒に対し、<u>成績を段階で表示</u> ※ <u>各問題の正誤や正答率等も表示</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領の範囲内で、<u>大学での学修の基礎となる教科・科目を出題範囲として測定</u> ○大学入学志願者に求められる<u>基礎的・基本的な知識・技能及びこれらを活用する力を測るものとし、「教科型」「合教科・科目型」「総合型」の問題により構成</u> ※ <u>具体的な試験科目の構成や出題範囲は、専門的に検討</u> ○各大学及び受験生に対し、<u>成績を段階で表示</u> ※ <u>標準化得点、パーセンタイル値等の提供も検討</u>
形態	<ul style="list-style-type: none"> ○多肢選択方式を原則としつつ、一部記述式も検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○当面は多肢選択方式により知識・技能を活用する力を測定する出題を充実。記述式については、<u>専門的・技術的に検討</u>
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ○在学中に複数回（例えば年間2回程度）、<u>高校2・3年での受験を検討</u> ※ <u>高校1年からの受験も可能とするか検討</u> ○年間の実施時期は、<u>夏から秋までを基本として学校現場の意見等を聴取しながら検討</u> ○実施場所は、<u>高校（学校単位）、都道府県（個人単位）ごとに会場を設ける方向で検討</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○当面、1回の試験を1日で終えることを前提に、<u>年2回の実施を検討</u> ○年間の実施時期は、<u>高校教育への影響を考慮しつつ、高校・大学関係者等で協議</u> ○実施場所は、<u>原則として大学において会場を設定</u>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○「<u>高等学校卒業程度認定試験</u>」と統合する方向も含めて検討。 ※ <u>高等学校卒業程度認定試験と単に統合するのではなく、両制度の趣旨を踏まえたテストの在り方等、多様な観点から検討</u> 	-

※実施に向けた詳細な制度設計は、今後、一体的に検討。

活用力を問う問題について（案）

1. 活用力について

- 知識・技能を活用する力とは、既得の知識・技能を用いて、情報を解釈・分析・評価し、課題解決のため必要な構想を立て、実践し、評価・改善することなどを通じて、課題解決のための方策を提示するために必要とされる力と考えることができる。
- 現行学習指導要領においては、こうした力は、例えば、
 - ①概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする活動、
 - ②情報を分析・評価し、論述する活動、
 - ③課題について構想を立て実践し、評価・改善する活動等を通じて育成されるものとされている。

2. 活用力を問う問題の類型について

①教科型：

特定の教科・科目における知識・技能を当該教科・科目の文脈の中で適切に活用できるか等について問うもの。

②合教科・科目型：

ある教科・科目における課題に、他の特定の教科の知識・技能を用いて解決する力を問うもの（例：地理の問題において共通必修科目^(※1)の数学Ⅰレベルのデータ分析力を必要とする問題）。

③総合型：

あらかじめ設定された特定の教科・科目の枠を超えて、実社会や実生活における課題解決に、共通必修とされる範囲^(※2)でのすべての知識・技能を組み合わせ用いる力を問う問題（総合型）（例：環境問題や食の問題など現実社会における複雑な構造をもった課題に対して、複数の資料等の情報を分析・評価すること、概念・法則・意図などを解釈し課題に適用することなどのプロセスを経て解答するもの）。

（※1）すべての生徒が共通に履修することとされている科目。「国語総合」、「数学Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅰ」、「体育」及び「保健」が該当する。

（※2）すべての生徒が履修することとされている教科・科目。各教科において複数の科目の中から選択的に履修することとされている科目（選択必修科目）及び共通必修科目をいう。